

2 0 2 4 年 度 事 業 報 告

自 2 0 2 4 年 4 月 1 日

至 2 0 2 5 年 3 月 3 1 日

印刷図書館は1947年（昭和22年）、戦後間もない時期に設立されました。以来、今日に至るまで印刷産業の発展向上を目指す「知」の学び場として活動を続けています。

2023年度より資料の保存環境の見直しのため、温湿度データロガーと除湿機を導入。2024年度はカビ被害資料のクリーニングを実施し、引き続き館内の環境整備に努めました。

2024年度の事業運営にあたりましては、一般財団法人としての公益性を踏まえつつ、専門図書館として一般利用者へ情報提供を行うとともに、各事業の積極的な推進に努めました。本年度の各事業の実施状況を報告するに当たり、下記のとおり、印刷図書館の事業体系に沿ってご報告いたします。

印刷図書館の基本事業

【公益目的事業】 1. 図書館運営事業

- (1) 専門図書館としての一般公開及びサービス
- (2) 図書・資料の収集、整理
- (3) 利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供
- (4) 関連機関との相互協力

2. 広報活動事業

- (1) 受入れ資料のデータベース化
- (2) インターネットへの蔵書データの更新
- (3) ホームページを通しての新刊情報の紹介
- (4) ホームページを通しての財団活動報告等

3. その他事業

- (1) 所蔵する印刷文化財の貸出

【重 点 テ ー マ】 1. 資料保存環境改善のためのカビ被害資料のクリーニング

2. 図書館のPR活動の強化

3. 図書館と関連機関との連携強化

【運営管理業務】 理事会及び定時評議員会の開催

事業報告

【公益目的事業】

1. 図書館運営事業

(1) 専門図書館としての一般公開及びサービス

① 利用状況

当図書館の利用にあたっては、会費を納めている法人(維持会員)は無料、それ以外は、一般利用 600 円、学生 200 円としている。利用者の多くが印刷業界並びに関連業界であるが、関係者以外の一般利用者の特徴として、シンクタンクやコンサルティングサービス会社による印刷業界の動向及びデータ収集の利用が多い。

2024 年度の利用者数は前年度に引き続き減少傾向にあり、これはコロナ禍で加速した情報のデータ化、デジタルメディアを活用した情報獲得手段の多様化に起因していると考えられる。そのため、印刷図書館のホームページへのアクセス数を増やすべく、ブログ『印刷図書館だより』にて年間 30 回程情報を発信する等 SNS を活用した PR 活動を行った。

2025 年度は印刷図書館の利用促進・知名度アップのため、現行の蔵書管理システムを見直し、蔵書データをインターネット検索エンジンでも検索できるよう改変し、ネット上でのホームページの価値向上を図り、改善を目指す。詳しい内訳は以下の表のとおりである。

(印刷図書館来館者内訳 単位：名)

	維持会員	一般	学生	合計
2023 年	101	64	3	1 6 8
2024 年	81	64	3	1 4 8

なお、2024 年度のホームページのアクセス件数は次のとおりである。

・2023 年度アクセス件数

(期間：2023 年 4 月～2024 年 3 月)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
セッション数	241	417	484	564	437	344	408	378	355	393	412	430	4,863

・2024年度アクセス件数

(期間：2024年4月～2025年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
セッション数	1,047※	458	563	557	487	385	706※	771	403	406	481	408	6,672

※Dos 攻撃の可能性あり

・2024年度アクセス件数前年対比

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
セッション数	806※	41	79	-7	50	41	298※	393	48	13	69	-22	1,809

※Dos 攻撃の可能性あり

② 閲覧分野

例年同様、最も多く閲覧された分野は印刷業界の分析資料だった。最新の統計情報や業界動向資料として新聞・雑誌・機関誌・会報なども併せて閲覧されることが多く、他にも、戦前の印刷技術・歴史について調べる際にも利用されるため、資料形態としては新聞・雑誌類が最も多く利用される結果となった。

また明治・大正時代の書体見本や雑誌等の貴重資料については、書体研究家や当時の資料を探している方にとって実物を直に触れることができるため、好評であった。2024年度における閲覧分野の大まかな内訳は次のとおりである。

(単位：件／複数回答)

市場分析 動向統計	技術 経営 料金 管理	資機材 (印刷機械、 紙、インキ等)	社史 組合史 歴史 人物伝	学会要旨 国内外論文	雑誌 新聞 機関誌 会報	明治 大正 昭和初期 史料	書体 活字	他 (叙勲・業界 イベント等)
34	26	11	14	2	34	11	6	2

③ 貸出業務及びコピーサービス

ア 貸出業務

貸出については、維持会員のみ可能で、2週間で5冊としている。ただし、貴重資料並びに、最新データについては館外貸出を行っていない。今年度における貸出状況は次のとおりである。

(単位：点)

市場分析 動向・統計	技術・経営 料金・管理	社史・組合史 歴史・人物伝	学会要旨 国内外論文	明治・大正 昭和初期史料	雑誌 他	合計
4	16	4	0	3	3	30

イ コピーサービス

コピー総数は、利用者数は減っているものの前年度の約 1.8 倍にあたる 1,532 枚だった。例年ならば市場分析及び統計資料のコピーが半数を占めるのだが、本年度は戦前の技術・印刷史や書体見本帳などのコピー利用が最も多かった。本年度におけるコピーの利用状況及びパソコン利用は次のとおりである。

	コピー総数	白黒コピー枚数 (@50 円)	カラーコピー枚数 (@100 円)	私物 P C への入力 (@400 円)
2023 年	844 枚	769 枚	75 枚	3 名
2024 年	1,532 枚	1,515 枚	17 枚	0 名

(2) 図書・資料の収集、整理

図書、資料の収集にあたっては、印刷関連の発行状況を常に把握し、積極的に関連団体や企業に問い合わせ、充実を図ったほか、バックナンバーの欠号補充にも努めた。

2023 年度の受入総数 942 点に対し、本年度の受入資料の総数は逐次刊行物の休刊・Web 移行等により減少し、803 点となった。区分の内訳は次のとおりである。

《2024 年度 受入資料の区分》

(単位：点)

区分	点数	資料紹介
プリプレス	0	
印刷技術	2	新聞製作技術の軌跡（日本新聞製作技術懇話会 会報連載）
後加工	1	別冊太陽 日本のブックデザイン—五〇年 装丁とその時代
印刷資材／印刷機械	7	機能紙研究会誌、印刷発注のための紙の資料 2024 年版
技術一般／料金／出版／法令	13	JATS がわかる—学術情報 XML 作成の実際—、印刷料金 2025 年

環境／経営		版
名簿／業界イベント／図録	17	写真植字の百年、Graphic Art&Design Annual2023、各種名簿
市場分析、動向、統計	37	季刊出版指標、ヤノ・レポート、印刷白書
調査研究報告書	1	2023年度印刷産業機械業界のEPA活用推進に関する調査研究報告書
研究論文、セミナー要旨	14	印刷学会主催の各種セミナー要旨
学会誌	21	印刷、画像、写真、メディア学会誌等
組合史・団体史・社史	5	株式会社小森コーポレーション100年史、モリサワと文字の100年、日本新聞協会70年史
その他歴史・印刷関連史	0	
国内雑誌類	197	20誌（継続誌／月刊、隔月、季刊発行）
外国雑誌類	0	
業界新聞	256	8紙（継続紙／週刊、月2、月3発行）
会報、機関誌等	228	61誌（月刊、季刊、年刊発行）
その他	4	『大漢和辞典』の百年、書物とデザイン
合 計	803	

（３）利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供

印刷図書館の利用者の探す資料内容は高い専門性が求められるため、そのニーズに対応できるよう、資料は特集記事ならびに注目記事をデータベース化し、より詳細な資料情報の提供に努めた。

また、当館で該当資料が見つからなかった場合は、他の機関にも問い合わせをし、所蔵の有無を確認し対応した。

（４）関連機関との相互協力

関連機関の企画展示のチラシやリーフレットの配布協力、情報提供など業界団体や公的機関との連携・協力を積極的に取り組んだ。

2. 広報活動事業

当財団はホームページを通して広報活動を実施しており、蔵書データの更新、新刊情報の紹介、財団活動等をその都度発信し、広報活動に努めた。

(1) 受入れ資料のデータベース化

今年度の受入れ資料 803 点すべてを、蔵書管理システムへデータベース化した。入力事項は、基本の書誌データ（タイトル、発行元、発行年、体裁）以外に、特集記事も入力し所蔵資料の管理に努めた。

(2) インターネットへの蔵書データの更新作業

入力したデータは、速やかにサーバーに転送し、ホームページの[蔵書検索]機能の充実と、情報公開に努めた。

(3) ホームページを通しての新刊情報の紹介

受入れ資料のうち、定期刊行物以外の図書、報告書類については、ホームページの[新刊情報]に、表紙画像とともに主要目次を掲載し紹介した。

なお、本年度の掲載件数は昨年度 24 件に対し、26 件となった。

(4) ホームページを通しての財団活動報告等

ホームページを通して理事会及び定時評議員会に関する事業報告を掲載した。また、第 65 回全国カタログ展の受賞作品の期間限定展示の告知、ブログ更新のお知らせを行った。

3. その他事業

(1) 所蔵する印刷文化財の貸出

印刷文化財のデジタル画像の他、外部機関へ展示用、撮影用として現物資料の貸出を行った。本年度もなお昨年度同様、現物資料の貸出が2件、デジタル画像資料の貸出4件の合計6件となった。詳細については次のとおりである。

作 品 名	1. 『大阪商船太刀山 ポスター』 日本語版 / 1916 年 2. 『大阪商船太刀山 ポスター』 英語版 / 1916 年 3. 『麒麟ビール ポスター』 / 1917 年 4. 『麒麟ビール ポスター』 / 1923 年 5. 『蜂印香竄葡萄酒 ポスター』 / 1923 年 6. 『壽屋赤玉ポートワイン ポスター』 / 1922 年 7. 『伊勢崎大絢銘仙 ポスター』 / 1928 年 8. 『足利銘仙 ポスター』 / 1929 年 9. 『アサヒビール ポスター』 / 1929 年 10. 『アサヒビール ポスター』 / 1934 年 11. 『片倉生命 ポスター』 / 1934 年 12. 『豊国印御裏地 ポスター』 / 1929 年 13. 『月桂冠 ポスター』 / 1936、37 年 14. 『高橋東洋堂 ポスター』 / 1938 年 15. 『塩水港製糖 ポスター』 / 1935-38 年
資 料 形 態	現物資料
貸 出 先	一般社団法人日本印刷学会
目 的	日本印刷学会主催「2024 年度春期研究会（第 151 回研究発表会）」の特別講演資料展示のため

作 品 名	1. 『活版見本帖 未完』 / 活版製造所 製文堂、1896 年 2. 『活字と機械』 / 東京築地活版製造所、1914 年 3. 『最新活字標本』 / 森川龍文堂、1935 年
資 料 形 態	実物資料
貸 出 先	株式会社グラフィック社
目 的	書籍『活字の種を作った人々（仮題）』（グラフィック社刊行予定）に掲載のため

作 品 名	ポスター「壽屋赤玉ポートワイン」 1922 年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	青梅市立美術館 学芸員
目 的	日本印刷学会主催「2024 年度春期研究会（第 151 回研究発表会）」 で参加者に配布する予稿集（デジタル配信）の挿図として

作 品 名	ポスター「壽屋赤玉ポートワイン」 1922 年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	株式会社河出書房新社
目 的	2025 年 3 月刊行の『明治・大正・昭和の変な広告』（電子書籍含 む）にて、明治・大正・昭和の広告を集め、その時代背景を楽しく解 説するための挿図として

作 品 名	ポスター「月桂冠」 1936-37 年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	青梅市立美術館 学芸員
目 的	2025 年 2 月 8 日神奈川大学のエクステンション・カレッジにおける 講義「戦前期日本のポスターに見るモダンライフ」の資料として

作 品 名	「米欧回覧実記 第 1 篇」 久米邦武、1878 年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	株式会社 NHK エディケーショナル
目 的	JICA・放送大学学園共同制作番組「続・日本の近代化を知る」第 10 章 日本 と国際法（2020 年 12 月 12 日初回放送） 日本の近代化の道筋と複雑な動きを日本人ならびに国際社会での日本を学ば うとする学生たちに向けた教育講座内の資料として（再放送・期間延長）

【重点テーマ】

1. 資料保存ならびに保存環境改善のためのカビ被害資料のクリーニング

書庫にて一部資料にカビ被害が発生したことから、2021 年～2022 年にかけて、閲覧室と書庫内の温湿度調査を開始、2023 年度より資料の保存環境の見直しのため、温湿度データロガーと除湿機を導入することで、図書館内の湿度状態を劇的に改善した。そして最終段階として、2024 年度は専門業者によるカビ被害資料のクリーニングならびに IPM メンテナンス（総合的有害生物管理）を実施し、館内の環境整備に努めた。今後は HEPA フィルター（ $0.3\mu\text{m}$ 以下の微細な粒子をキャッチ可能）相当のフィルター付き吸引機を活用しつつ、引き続きクリーニング対象外だった資料や書架の環境整備を実施していく。



（左：除湿機（受付横） 中央：データロガー 右：閲覧室クリーニング作業の様子）

2. 図書館の PR 活動の強化

SNS を活用した広報活動として、ブログ「印刷図書館だより」を活用し、新刊・雑誌案内など図書館ならびに関連機関の企画展の情報等を年間 30 回程度発信している。

その他にも前年度に引き続き東京都印刷工業組合、公益社団法人日本印刷技術協会（JAGAT）に協力を依頼し、毎年 4 月に開催している新人研修セミナーにおいて、当館のリーフレット並びに招待券付き案内状を配布した。

6 月 17 日～7 月 4 日にかけては、期間限定で第 65 回全国カタログ展の受賞作品のうち、上位賞・特別賞・審査員特別賞を含めた入賞作品全 47 点を展示し

た。会期内は入館料を無料とし、全国カタログ展の受賞作品を目的とした来館者にも、図書館を利用できるようにした。

図書館総合展 2024（オンライン 6 月 29 日～7 月 7 日、11 月 16 日～24 日の 2 期、パシフィコ横浜にて 11 月 5 日～7 日）ではオンラインのみならずパシフィコ横浜会場の専門図書館紹介コーナーによるパネル展示に参加し、アピールに努めた。



（左：印刷図書館ブログ『印刷図書館だより』 右：全国カタログ展受賞作品展示の様子）



（図書館総合展：パシフィコ横浜会場『あなたも使える専門図書館 2024』パネル展示）

3. 図書館と関連機関との連携強化

本年度は、日本印刷学会主催の 2024 年度春期研究会の特別講演において、明治から昭和にかけての貴重なポスターコレクション史料の貸出、日本図書館協会発行の機関誌『図書館雑誌』2024 年 10 月号にて、「ウチの図書館 お宝紹介」コーナーで「印刷図書館寄贈コレクション」を寄稿、江東区立東陽図書館の企画展示「もじのなりたち」（2025 年 2 月～3 月）への協力など、他関連機関との積極的な連携・協力を行った。

なお、印刷博物館との「印刷専門図書館交流会」については、見学先候補の施設工事による休業などのため、今年度は中止し、次年度に見送る結果となった。

【運営管理業務】

理事会・定時評議員会の開催

2024 年度における開催状況は、次のとおりである。

(1) 定時評議員会

2024 年度 定時評議員会

- ・開催日時 2024 年 6 月 12 日 午後 2 時～2 時 30 分
- ・開催場所 ホテルニューオータニ「折り鶴」舞の間
- ・出席者 評議員 23 名中 12 名
理事 16 名中 14 名、監事 1 名中 1 名
- ・決議事項
 - ・2023 年度決算書類承認の件
 - ・理事 7 名選任の件
 - ・評議員 7 名選任の件
- ・報告事項 2023 年度事業報告の件

(2) 理事会

2024 年度 第 1 回 理事会（書面決議による理事会）

- ・理事会の決議があったとみなされた日／2024 年 5 月 13 日
- ・理事会決議事項の内容
 - ・2023 年度事業報告並びに決算の件
 - ・2024 年度定時評議員会の開催日の件

2024 年度 第 2 回 理事会

- ・開催日時 2024 年 6 月 12 日 午後 2 時 30 分～2 時 35 分
- ・開催場所 ホテルニューオータニ「折り鶴」舞の間
- ・出席者 理事 16 名中 16 名、監事 1 名中 1 名
- ・決議事項
 - ・代表理事選任の件
 - ・常務理事選任の件

2024 年度 第 3 回 理事会

- ・開催日時 2025 年 3 月 19 日 午後 2 時 30 分～2 時 45 分
- ・開催場所 日本印刷会館 202・203 会議室
- ・出席者 理事 16 名中 13 名、監事 1 名中 1 名
- ・決議事項
 - ・2025 年度事業計画並びに予算の件

(付記) 事業報告に係る附属明細書について

事業報告に関して、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定されている附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はないので附属明細書は作成していない。

以 上